編集後記

◆新型コロナウイルスによる自粛で誰しも調子が上がらない時期だったと思うが、原稿はそれなりに集まった。ありがたい。しかし、けがをした人や具合がわるくなって入院した人がいて、全体としては作品が減ってしまった。かく言う自分もステイホーム（家にいなさい）を忠実に守った結果、作品ができなくなった。これからは前と同様の生活に戻るわけではないにしても、会員それぞれがウォーミングアップしながら短歌や俳句作品、エッセイに取り組んでほしいと思っている。

新型コロナについて日本がさも成功したような報道があるが、「口角泡を飛ばす」ような議論を日本ではしないし、なにより日本人は家でも「しゃべらない」ことが原因ではないか。少なくとも、わが家ではそう結論づけている。みなさんは、どう考えますか。

◆何年ぶりかでミシンをかけたら、すっかりハマってしまった。市中の店という店からマスクが消えたころ、それなら布のマスクを作ってみようかと思ったのだ。さいわい母が遺した晒し木綿があった。作り方をインターネットで調べてみると、あるわあるわ。プリーツを入れたマスクやら立体マスクやら、いくらでも出てくる。それも動画でていねいに教えてくれる。そうして布マスクを作っているうちに、ミシンをかけるのがやたら楽しくなった。ミシンをいつも出しておけるように机を設けたことも大きい。母のタンスにあった着物をほどいてエプロンを縫ったり、余り布でミニ腕カバーを作ったり。超シンプルなパジャマも縫ってみた。朝起きた途端、作っている最中のものが頭に浮かぶ。自分にはちょっと難しい技だけれど挑戦してみるかと考える。その一つ一つが面白くて仕方がない。まるで「作りたい病」だ。型紙を起こすのも嫌いではない。むかしは服飾の学校に通うとか、先生について教わるとかしなければ習得できなかった技術が、ネットで検索するとたいてい出てくる。無料で型紙の寸法を教えてくれるサイトもある。なかには、こんなのでいいの？と思うほど雑な作り方をする人もいる。が結局は、布を切って縫って着られればいいのだと妙に納得させられたりもする。

毎日毎日、夢中で作りつづけた時期を過ぎて、いまはミシンをカタカタ動かしながら手触りのあるものを作ることをゆるやかに楽しんでいる。巣ごもりの三ヵ月で、新たな自分を発見した気分である。

（布宮慈子）

muninokai.com

上記のサイトでは、フルカラーのオンライン版「展景」を公開しています。

季刊 展景 98号
二〇二〇年六月三十日　発行
編集・発行人　布宮慈子
制作　スタジオ・マージン
無二の会「展景」発行所
山形市上町二―一―七―二〇二
info@muninokai.com

Copyright © 2020 MUNINOKAI. All rights reserved.